

金比羅樽流し

6月1日、町指定無形民俗文化財の「金比羅樽流し」が長崎の川向地区で行われました。

「樽流し」とは、金比羅信仰のひとつで、樽に酒を詰めたものを海や川に流し、舟運の安全や水難事故の防止を願う行事です。金比羅信仰は江戸時代中期頃から全国に広まったと言われており、かつては各地で樽流しの風習が見られたようですが、次第に廃れ、今でもこの風習が残っていることが確認されているのは、県内では川向地区のみとなりました。



水難事故防止の願いを込め、樽を流す白田ヤノさん

川向地区においても、人口の減少に伴い存続が危ぶまれたことがありましたが、数年前に講中をあげての樽流しが行われなくなってからは、白田ヤノさん（桜町）が「水難事故を起こしたくない」という思いで、一人で樽流しを続けていました。

これを知った有志が、県内に唯一残る樽流し行事を守り後世に伝えようと、平成26年に金比羅樽流し保存会（鈴木昭十会長）を発足。白田さんとともに伝統行事の継承に乗り出しました。

当日は、最上川左岸に建てられた金比羅堂で神事を行ったあと、白田さんらが酒を入れた小さな樽としめ縄を最上川に流し、水難事故の防止を祈りました。白田さんは、「保存会の皆さんの助けがあって今年も無事樽流し行事を行うことができた。今後も続けていきたい」と継承に意欲を見せていました。

「さくらんぼ祭り」で小塩田植踊を披露

6月18日、山形市で開催された県主催の「第5回日本一さくらんぼ祭り」中のふるさと伝統の催しで、小塩田植踊保存会が「小塩御福田田植踊」を披露しました。

小塩御福田田植踊は、小塩地区に江戸時代から伝わる豊作の祈りを込めた踊りで、町の無形民俗文化財に指定されています。

七日町に設けられたステージ前には多くの観客が集まり、伝統ある踊りと気温30℃にせまる暑さの中、息を合わせて華麗に踊る保存会のメンバーの姿に、盛大な拍手が送られました。



豊田小3年生が役場を見学



佐藤町長、森谷副町長を囲んでの記念撮影

6月17日、豊田小学校3年生の児童が、町内の企業や施設を訪れ、町について調べる社会科見学を行いました。

役場では、職員の案内で事務室や町議会が行われる大会議室、町長室などを見学。その後設けられた町長・副町長への質問の際には、町全般に関することや役場で行っている仕事についての質問を投げかけ、懸命にメモをとっていました。

児童からは「町長室に入ることができて嬉しかった」「役場の仕事は窓口や税金に関する仕事だけでなく、色々な課があってみんなが町のために働いていることがわかった」など次々と感想が飛び交い、有意義な社会科見学となったようです。

第112話 松田家から出た医師たち 中山町歴史散策

長崎村に、代々医業を営んだ松田家があります。先祖を辿ると長崎城主中山玄蕃頭朝正が最上家の配下となった天正12年（1584）に中山家の家臣山崎大學頭忠勝が初代で、忠勝は最上家に属することを望まず、母の生家（現在の大江町貫見）に隠棲しました。姓を母方の「新貝」に変えた後、二代目の茂左衛門は長崎に戻って、庄屋を務めています。その後、四代目の豊重は新貝家の出ではありませんが、慶安元年（1648）、松平忠弘の山形への移封に伴って、家臣であった父が山形へ移り住んでいます。当時、豊重は江戸の今大路道三玄鑑の門に入り、医学修業をしておりましたが、医学修業を終えた後、父の元に帰り、やがて長崎の新貝家に入りにしてきます。

その生涯を終えた人物です。六代の長尾清康は、延宝7年（1679）生まれで、後に長崎村の青木由政定章の養子となり、青木自仙と号しています。その後、十一代松田玄立、十二代松田敏雄らは、共に近代医学を学び、明治、大正、昭和の時代にわたり、この町の洪水に伴う伝染病の蔓延時には防疫指導や治療など、公衆衛生、保健行政に多大な貢献を果たすなど、当町の医療業績に大きな貢献をいたしました。

【用語の説明】
隠棲：俗世間を逃れて静かに住むこと。
庄屋：江戸時代に郡代・代官のもとで村政を担当した村の首長のこと。
移封：大名などを他の領地に移すこと。
俳諧師：俳句の連歌を職業とし、その点料を取って生活する人のこと。

※参考 中山町史 中巻
第9章第4節 疫病の流行

地区中総体の結果

6月18日・19日に、東村山地区中学校総合体育大会が行われ、山中の生徒たちが日頃の部活動の成果を発揮し、精一杯戦い抜きました。それぞれの大会結果は次のとおりです。

- 団体**
 - 優勝（いずれも県大会出場）
 - ソフトテニス女子
 - 剣道男子・剣道女子
 - 準優勝
 - 野球
 - バスケットボール男子
 - ソフトテニス男子
 - 第3位
 - ソフトボール
 - バスケットボール女子
 - サッカー
 - 卓球男子・卓球女子
 - 柔道男子
- 個人**
 - 優勝（いずれも県大会出場）
 - 柔道男子50kg 最上 魁
 - 柔道男子90kg 井上立士郎
 - 剣道女子 奥山 璃胡
 - 水泳男子200m自由形 橋本 駿彦
 - 水泳男子400m自由形 橋本 駿彦
 - 陸上共通女子200m走 原 伶奈
 - 陸上3年女子100m走 原 伶奈
 - 第2位
 - 陸上共通女子100mハードル 渡辺 美優
 - 柔道男子73kg 橋本 賢弥
 - 柔道男子81kg 高橋 惟庸
 - 剣道男子 近松 尚哉
 - 剣道女子 秋葉 美緒
 - 陸上女子走幅跳 渡辺 美優
 - 第3位
 - ソフトテニス男子 丹野 敦行・高木 成実ペア
 - ソフトテニス女子 江端 咲笑・渡邊 清良ペア
 - 鈴木 楓・柴崎 愛実ペア
 - 剣道男子 秋葉 健太
 - （いずれも県大会出場）
 - 剣道女子 古澤 勇人
 - （いずれも県大会出場）
 - 水泳男子100m平泳ぎ 小野寺南汐
 - 水泳男子200m平泳ぎ 小野寺南汐
 - 柔道男子90kg 麻生 大和
 - 水泳男子200m平泳ぎ 麻生 大和
 - 柔道男子90kg 冨田 修登